

酪農ヘルパー情報



酪農ヘルパー全国協会HP掲載動画「私たち酪農ヘルパーです！」より

今号の目次

時系列で見る酪農ヘルパー事業の構造の変化	2
酪農ヘルパー利用実態調査等から	
新人ヘルパー、コロナに負けず自己研鑽！	4
令和2年度酪農ヘルパー専門技術員養成研修受講者の感想	
令和3年度酪農経営安定化支援ヘルパー事業(ALIC事業)の概要	6
令和3年度酪農ヘルパー専門技術員養成研修について	7
酪農ヘルパー全国協会ホームページ活用ガイド	8
就農相談イベント「新・農業人フェア」東京・大阪会場に出展	10
臨時酪農ヘルパー普通傷害保険制度(令和3年度)	12

時系列で見る酪農ヘルパー事業の構造の変化

酪農ヘルパー利用実態調査等から

当協会が、毎年8月に全国の酪農ヘルパー事業を実施する都道府県団体や酪農ヘルパー組織（以下「利用組合」という）の協力を得て、酪農ヘルパー利用実態調査を実施している。

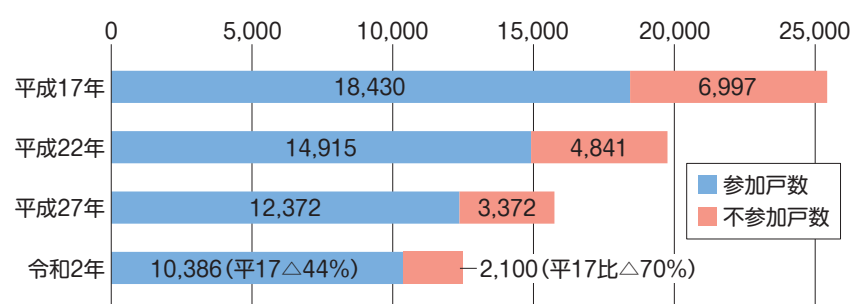
この利用実態調査結果については、年度末に「酪農

ヘルパー利用に関する資料」として毎年発行しているが、今回、平成17年8月調査分（専任酪農ヘルパーが最も多かった年）から5年毎の推移を図表に取りまとめ、併せてコメントを記載したので、酪農ヘルパー事業強化の参考にさせていただきたい。

■酪農ヘルパーが離農抑制の要因に

図表-1に利用組合に参加している酪農家戸数と参加していない酪農家戸数を示した。平成17年と令和2年を比較すると、参加酪農家の減少率は不参加酪農家の約半分であり（参加酪農家△44％／不参加酪農家△70％）、酪農ヘルパー利用が離農を抑制する一つの要因になっていると推察される。

（図表-1）利用組合への参加状況



■利用組合数は平成9年をピークに減少傾向

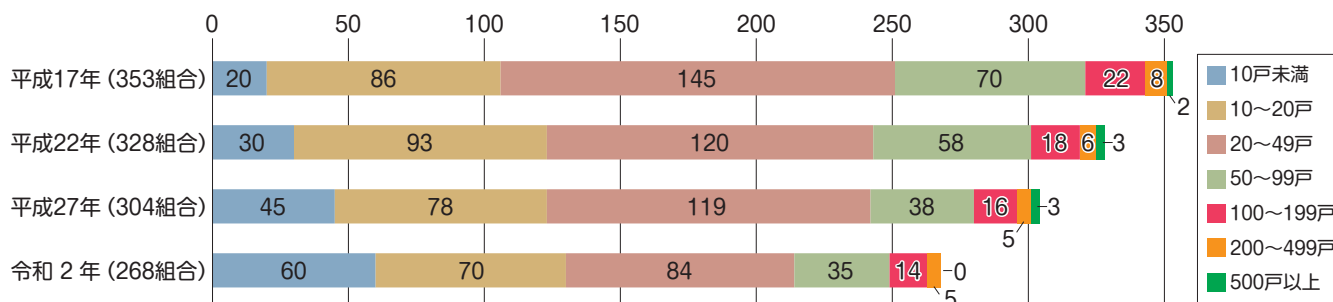
図表-2は参加戸数規模別に利用組合数を集計したものである。平成17年の総利用組合数は353組合であったが、酪農家の減少や組合の統廃合により、令和2年は268組合（5休眠組合を除く）と約4分の3に減少した（ピークは平成9年392組合）。

組合規模では、参加農家10戸未満の利用組合をみると、平成17年では全国20組合（全体の5％）で

あったが、令和2年は60組合（全体の22％）と増加しており、利用組合の小規模化が認められる。

酪農ヘルパー事業を維持継続するためには酪農ヘルパーが安心して働ける場所の確保が必要であり、利用組合の強化のために広域化や他の利用組合との連携等の具体的な行動が必要と考える。

（図表-2）参加戸数規模別利用組合数の推移



■年間24日以上利用が40%を超える

図表-3は利用農家の酪農ヘルパー年間利用日数である。利用農家の年間平均利用日数は平成17年度では17.2日であったが、平成22年度18.5日、平成27年

度21.8日、令和元年度は23.6日と増加傾向で推移している。

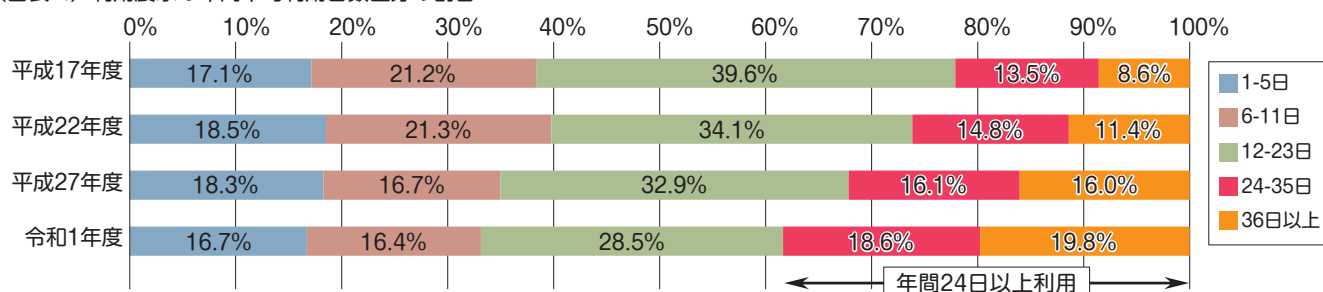
図表-4では年間平均利用日数区分の割合を示し

た。年間24日以上利用する農家が平成17年度で22％に対し令和元年度では約40％まで伸長している。利用農家戸数は減少しているが農家の利用希望が増加しているため、各利用組合の酪農ヘルパーの必要員数はあまり変わっていないことがわかる。

(図表-3) 利用農家の年間平均利用日数の推移



(図表-4) 利用農家の年間平均利用日数区分の割合



■ピーク比50%減の臨時ヘルパー、要員確保が急務に

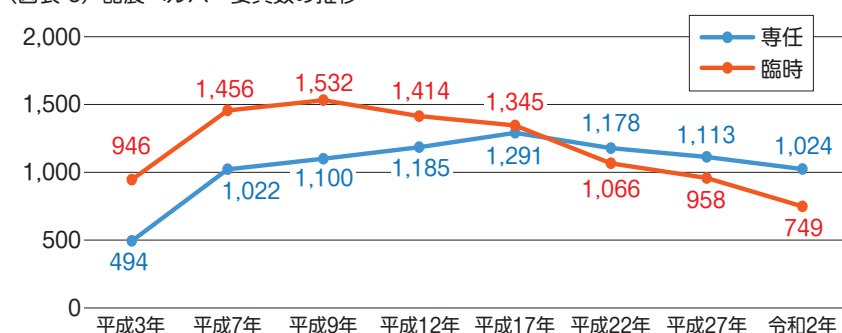
図表-5は酪農ヘルパー要員数を、専任酪農ヘルパー員数と臨時酪農ヘルパー員数を分けて示したものである。専任酪農ヘルパーは平成17年の1,291名をピークに以降徐々に減少し、令和2年で1,024名

るためには臨時酪農ヘルパーの存在が大きい。この臨時酪農ヘルパー要員確保に頭を悩ませている利用組合も多いと推察される。是非、酪農家の子弟は相互扶助の精神で臨時酪農ヘルパー要員登録をお願いしたい。

(ピーク比約80%)となった。一方、臨時酪農ヘルパーのピークは平成9年1,532名で令和2年には749名と大幅な減少(ピーク比50%強)となっている。

専任酪農ヘルパーは、通常利用や事前予約の酪農家への出役を中心にスケジュールが組まれている。このため、急な傷病等の発生時に対応す

(図表-5) 酪農ヘルパー要員数の推移



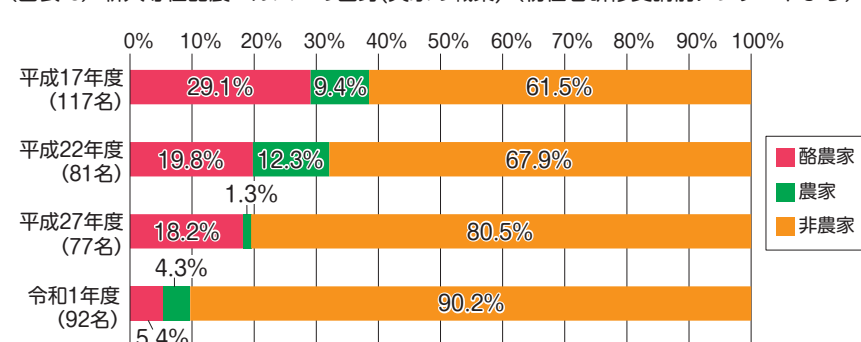
■非農家出身のヘルパーが増加、今後は作業の可視化が重要

図表-6では酪農ヘルパー就労1年以内を対象とした酪農ヘルパー技術員養成研修の際に実施しているアンケートから出身を集計した。平成17年度に受講した新人ヘルパーの約30%(3人に1人)が酪農家の子弟であるのに対し、令和元年度では約5%(20人に1人)と大きく減少している。

ではないだろうか。可視化による働きやすい環境作りをお願いする。

今後、さらに非農家出身が増加すると予想されることから、新人ヘルパーに対し「見ればわかるだろう」ではなく、よりわかりやすい識別表示や伝達方法が重要になってくるの

(図表-6) 新人専任酪農ヘルパーの出身(実家の職業)(初任者研修受講前アンケートより)



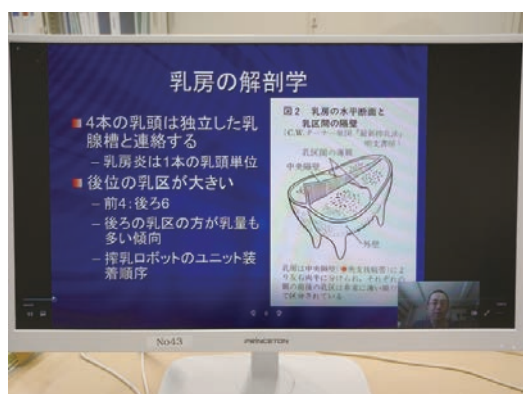
(文責: 佐藤)

新人ヘルパー、コロナに負けず自己研鑽！ ～令和2年度酪農ヘルパー専門技術員養成研修受講者の感想～

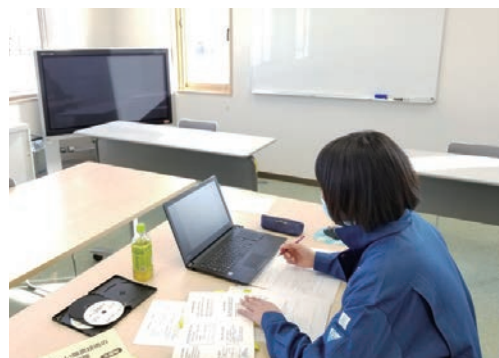
令和2年度酪農ヘルパー専門技術員養成研修の実施に際して、酪農ヘルパー全国協会では、研修会場での新型コロナウイルス感染症のまん延を防止するため、「三つの密の回避」「ソーシャルディスタンスの確保」などを含む感染防止措置を徹底する必要があると判断しました。その結果、宮城県・蔵王酪農センター開催分（9月、2週間コース）のみ実施し、他の研修日程は残念ながらすべて中止としました。

しかし、研修実施の必要性や利用組合からの要望が強かったこともあって、急遽代替策としてDVD教材の視聴による初任者研修を企画・実施しました。DVD教材の制作にあたっては、酪農学園大学・泉教授監修の下、同大学の多くの先生方によって1週間コースに相当する充実した内容となりました。先生方にはご多忙中ご対応いただき、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

このように令和2年度の養成研修は、例年と異なる実施形態ではありましたが、参加者数は蔵王酪農センターで6名、DVD研修で72名、合計78名となりました。研修受講後の感想文から一部の方を下記にご紹介いたしますが、コロナ禍におけるヘルパー業務を体験した上で、研修が業務に直結していることを実感し、今後ヘルパーとしてより成長したいという意気込みが感じられる内容です。今後も地域において、ますます活躍されますよう期待しております。



DVD研修画面から



各地で受講中のひとコマ①

【DVD 研修受講生の感想・意見】

●北海道（十勝管内） NYさん

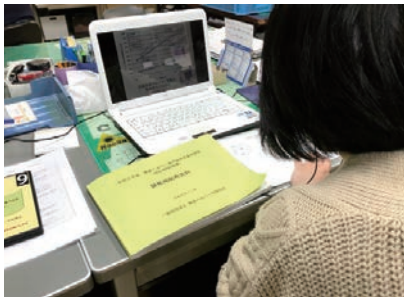
コロナ禍の影響によって例年と違う点が増え、仕事に対する不安も少しずつ増えていた。しかし、その中でもこうしてDVD研修という形ではあるが、知識を習得できる場が設けられたことには感謝の念が尽きない。知りたかった内容について言及している動画もありとても参考になった。

●北海道（釧路管内） Tさん

これまでの人生で酪農についてほとんど学んでこなかったので、仕事を始めてから今日までたくさんの知らないことに出会ってきました。今回の初任者DVD研修でもまた、いろいろなことを学ぶことができました。時代によって変わる働き方に合わせて、ヘルパーという仕事のできた歴史を初めて知りました。今後は自分の課題である効率的に仕事を行うために、今回の研修で得た知識を元に仕事をしていきたいと思います。

●北海道（釧路管内） Nさん

ヘルパー業務に従事していると、これは一体どういうことなんだろうと思うことがよくあります。その場で先輩ヘルパーや牧場主に聞けない場合もあるので、今回の初任者DVD研修はとても良かったと思います。今後の抱負は、一日でも早く一人前の酪農ヘルパーになり、牧場主や先輩ヘルパーや後輩ヘルパーに頼られる存在になることです。



各地で受講中のひとコマ②

●北海道（宗谷管内） Oさん

初任者DVD研修を受けてみて思ったことは、まず講師の方に直接質問できず、自分の理解のみで話が進んでしまうことが残念だと思ったことです。ヘルパーの仕事を通じて農場の状態をすぐ把握できたり、他の牧場と比較をすることができ、自分が牧場をもったときのシミュレーションに繋がり、就農の準備として酪農ヘルパーはとてもよい職業だと思います。

●北海道（檜山管内） Kさん

今回の初任者DVD研修では基礎的なことから実用的なことまで専門的に詳しく学ぶことができました。私は新規就農を目指し、酪農ヘルパーの仕事を選びました。丁寧で正確に仕事をするよう心掛けていますが、一番大切なのは農家さんとのコミュニケーションだと思っています。毎日楽しく元気に働いていつかは私も立派な酪農家になれるように成長していきます。

●北海道（オホーツク管内） Oさん

酪農家の方もそれぞれに、経営や牛との関わり方、効率に対する考え方があり、またコストを減らすやり方や譲れない部分をお持ちなのだろうと、研修中考えた次第です。DVD研修では講師の方の正しい考え、知識を分かりやすく明示して下さいましたが、実際には個々の酪農家の方の行なっていることを尊重する必要があります。そしてDVDにある「来た時よりさらにきれいに」を基本とし酪農という農業に関わろうと思います。

●北海道（十勝管内） Oさん

今回、初任者DVD研修を受講して一番感じたことは、牧場主が「何を大切にしているのか」ということでした。スライドごとに「あそこの牧場ではこ

うだ」とかを照らし合わせながら見ていくと、「あの牧場では搾乳に力を入れているのか」とか、「エサを正確にやってほしいと言っていたのか」と、牧場主の言葉の真意について改めて考えさせられました。

●北海道（十勝管内） NTさん

初任者DVD研修はスライドでの学習だったので、解らないことや気になったことを質問できないのが残念でした。しかし、農業大学校で学んだ座学にプラスして、新しい内容や詳しく勉強することができたと思います。今回はコロナのために、例年先輩方から聞いていた農家実習ができないのは残念でしたが、酪農の基礎を学ぶことができました。

●新潟県 Sさん

酪農業務において経験・知識とにもない私にとって、昨年の2月から今日まで各農家さんの業務内容を覚えることに必死で、それぞれの業務内容の持つ意味や役割などを理解するところまでは到底およばなかった。しかし、ある程度の実務経験を経てからの今回の初任者DVD研修はとても有意義なものとなった。これまで疑問や不安に思っていたことが講義により解消され、日々のヘルパー業務にも自信が持てるようになった。



各地で受講中のひとコマ③

【蔵王酪農センター研修受講生の感想・意見】

●千葉県 Yさん

このような酪農ヘルパー研修がないと、他の組合のヘルパーとの交流はほとんどないので、今後、研修以外でも定期的に各地のヘルパーが集まる機会が増えることにより、酪農ヘルパー業界の風通しや視野が広がっていくのではないかと感じています。全体的に見て、他の業界に比べて女性の活躍が少なく感じられるので、集まる機会などを増やし、酪農業界をより良くしていけたらと感じました。

令和3年度 酪農経営安定化支援ヘルパー事業（ALIC事業）の概要

酪農家の休日が確保できるよう、酪農ヘルパー人材の確保・育成、傷病時利用の円滑化、利用組合の強化等を支援する。

酪農経営支援総合対策事業の一つである酪農経営安定化支援ヘルパー事業の令和3年度事業が決まりましたので、主な概要をお知らせします。

なお、事業実施に当たっての詳細につきましては、別途、お問合せをお願いします。

1. 酪農ヘルパー人材確保と育成

●酪農ヘルパー確保のための支援

- ・酪農ヘルパーに関心ある学生を対象としたインターンシップ実施に係る経費（宿泊費、交通費、傷害保険料及び損害賠償保険料）
(定額 上限：宿泊費は6,000円/泊)
- ・ヘルパー求人広告の掲載、人材確保のためのイベントへの参加や開催に係る経費（広告・HPへの掲載料、イベント出展料、配布資料、旅費）
(定額)
- ・酪農ヘルパー認知度向上と人材確保のため、利用組合等による教育機関への出前講座の実施に係る経費（謝金、旅費、配布資料印刷費）
(定額)
- ・ヘルパー就業内定者向けの就業前研修等に係る経費（宿泊費、交通費、傷害保険料及び損害賠償保険料）
(定額 上限：宿泊費は6,000円/泊)
- ・臨時ヘルパー（酪農後継者等）の出役経費
(定額 1,000円/出役 上限120回/年)
- ・外国人材の活用に向けた課題整理のための会議、調査等への取組
(補助率1/2)

【令和3年度新規事業】

- ・酪農ヘルパーを目指す学生又は生徒への修学支援
(補助率1/2 上限：60,000円/月 最大24ヵ月)

●酪農ヘルパー等の育成支援

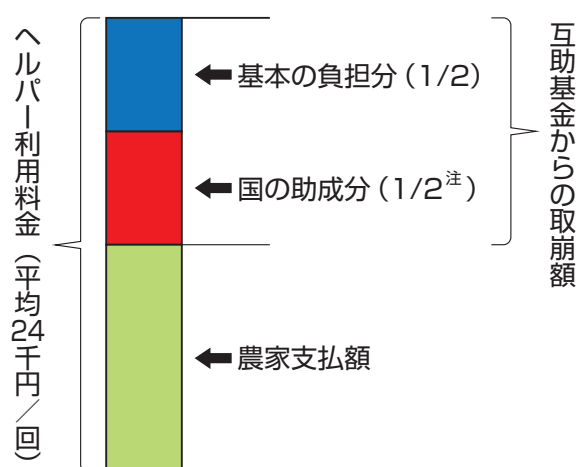
- ・雇用前研修手当の交付等に要する経費
(補助率1/2 上限：25,000円/月、3ヵ月以内)

- ・新人ヘルパー技術研修
研修手当（補助率1/2 上限：37,500円/月）
住宅・通勤手当（定額 上限：33,000円/月）
- ・酪農ヘルパー業務に必要な免許及び資格の取得支援
(補助率1/2)
- ・酪農ヘルパー対象の資質向上研修の実施、他研修への参加
(補助率1/2 参加促進費上限：8,000円/日)
- ・利用組合（組合員である酪農家を含む）等を対象とした酪農ヘルパー定着化のためのコミュニケーションやコーチングのための研修等
(補助率1/2)
- ・酪農後継者を対象とした酪農ヘルパー技術研修等への参加
(補助率1/2 上限：8,000円/日)
- ・新規就農を希望するヘルパーが離農予定する酪農家への派遣研修への参加
(補助率1/2 上限：8,000円/日)

2. 傷病時利用の円滑化

●傷病時における経営維持のための支援

- ・傷病時（①～⑤のいずれかの要件）利用料金を軽



注）複数の利用組合が互助制度を統合した場合、その年度に限り国の助成分が2/3となる。

減するために行う互助基金に対して国が1/2を助成。

＜傷病等の種類＞

- ①病気、けが、事故、出産、死亡
- ②忌引き
- ③父母等の病気見舞いに伴う里帰り
- ④育児サポート
- ⑤研修等への参加

互助組織は①～⑤から選択して実施することが出来る。（規約等に対象を定める必要がある）

3. 利用組合の強化

- 広域利用調整のための支援（補助率1/2）
 - ・往復30km以上の遠距離出役等の経費
- 利用組合の経営改善、体制強化のための支援（補助率1/2）
 - ・出役調整の事務軽減を図る電子システム化
 - ・コンサルタント活用による経営診断
 - ・酪農ヘルパー傷害補償・損害補償保険費用

- 家畜防疫対策のための支援（補助率1/2）
 - ・防疫機器等の整備費用

- 地域独自の取組への支援（補助率1/2）
（取組事例）

- ・未加入農場のヘルパー試行利用

【令和3年度新規事業】

- 酪農ヘルパーの待遇改善のための支援
 - ・利用料金及び専任酪農ヘルパーの給与を引き上げる利用組合に対する酪農ヘルパーの待遇改善のための奨励金の交付
（定額 表1の奨励金単価×専任ヘルパー人数
上限：12ヵ月以内）

（表1）

利用料金等の引き上げ額	奨励金単価
3千円以上/人・日	30千円/月
2千円以上3千円未満/人・日	20千円/月
1千円以上2千円未満/人・日	10千円/月

令和3年度酪農ヘルパー専門技術員養成研修について

酪農ヘルパー全国協会では、酪農家に信頼される、高い技術を持った酪農ヘルパー要員を育成するため、平成3年より酪農ヘルパー専門技術員養成研修を実施しています。研修は毎年実施しており、これまでに延べ3,500名余の酪農ヘルパーが受講しました。令和3年度においても、初任者向け（就業後1年以内）と中級者向け（就業後3年以上）の2種類の養成研修の実施を計画しています。

初任者研修は研修Ⅰ（2週間コース）と研修Ⅱ（1週間コース）があり、2週間コースは酪農の基礎知識を学ぶ講義と酪農家等実習のカリキュラムとなっています。1週間コースは座学講義が主体です。中級者研修は専門知識・技術のスキルアップを目指した内容となっています。

いまだ全国的にコロナ禍の収束が見通せない状況ではありますが、研修を実施する際は、会場ごとに感染防止措置を確実に講じる方針でありますので、ご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

なお、開催スケジュールにつきましては、現在研

修施設と調整中です。感染の状況によっては実施できない場合がありますので、受講申込方法等と併せて、必ず最新の情報を当協会ホームページにてご確認ください。

- 酪農ヘルパー養成研修

<http://d-helper.lin.gr.jp/daily/#h01>



酪農ヘルパー全国協会ホームページ活用ガイド

酪農ヘルパー全国協会では、ホームページを通じて酪農ヘルパー事業に関する情報を関係者及び一般の皆様幅広く提供することにより、酪農業の今後の発展に不可欠な酪農ヘルパー制度の安定的な運営に貢献できるよう努めています。

主なコンテンツには、①酪農ヘルパーに興味を持っている一般の方々向けに仕事内容を易しく紹介する「酪農ヘルパーガイド」と「酪農ヘルパー動画集」——このほど南十勝酪農ヘルパー有限責任事業組合の皆様のご協力で完成した新作をご覧下さい——、②酪農ヘルパー就労を考えている方々向けに「酪農ヘルパー募集情報」や、各地の

利用組合の活動状況や募集情報を知ることのできる「ヘルパー組合の活動紹介」を設けています。学生さん向けには「インターンシップ情報」（就労体験）もあります。③酪農ヘルパー利用組合向けには、「酪農ヘルパー専門技術員養成研修」の開催要領及び受講申込に関する情報や、「臨時ヘルパー傷害補償制度」のご案内、また毎年全国の利用組合のご協力を得て実施している「利用実態調査」の結果報告などを掲載し、日々の業務に役立てていただけるものとなっています。

関係者の皆様には、教育研修や要員採用のツールのひとつとして、ぜひ当ホームページを積極的にご活用いただきますようお願いいたします（リンク・掲載希望、ご意見ご要望は随時当協会までお寄せください）。

トップページ <http://d-helper.lin.gr.jp/>



トップページ ヘルパー募集情報

*当ホームページはスマートフォンからのアクセスにも対応しております。



What's New? (当協会からのお知らせ)

酪農ヘルパーガイド

酪農ヘルパーってなに？

酪農ヘルパーってどんな仕事？

酪農ヘルパーはやりがいのある仕事

よくあるご質問 (FAQ)

酪農家とは、酪農ヘルパーとはどんな仕事なのか、初めての人にも理解していただけるように、Q&Aをまとめて平易に紹介しています



利用組合向け情報

酪農ヘルパー養成研修

研修会の開催日程、会場、カリキュラムの概要、受講申込方法等について掲載しています

臨時酪農ヘルパー傷害補償制度

臨時ヘルパーの出役中の事故による傷害を補償する保険のご紹介です

酪農ヘルパー利用実態調査

毎年、全国の利用組合のご協力を得て、組織の状況や利用実績について集計した調査です。ヘルパー制度充実のための貴重な基礎資料です

協会情報誌「酪農ヘルパー情報」

当協会の活動状況をお伝えする情報誌です。毎年発行しています

過年度酪農ヘルパー事業の取組事例集

各地の利用組合によるユニークな取り組みを紹介する、先進事例報告集です

酪農ヘルパー動画集

【動画】 私たち酪農ヘルパーです！ **NEW!**

北海道の大地に躍動する若き酪農ヘルパーの雄姿。自らの仕事、暮らし、夢について語ります

【動画】 酪農ヘルパーになろう

酪農ヘルパーの仕事の実際について詳しくご紹介します

【動画】 酪農の仕事

酪農家の仕事の実際について詳しくご紹介します



ヘルパー組合の活動紹介 **NEW!**

利用組合紹介サイト、採用情報リンク集

各地の酪農ヘルパー利用組合の活動状況や採用情報を知ることができます。リンクを希望される利用組合はお気軽に当協会までご連絡ください



酪農ヘルパー募集情報

各県別 募集情報

各地の酪農ヘルパー募集情報を見やすく掲載しています。アクセスして下さい



学生インターンシップ情報

各県別 募集情報

酪農ヘルパーを体験してみたい、と思った学生さん！
インターンシップやっていますよ



新規就農情報

新規就農までのステップ

新規就農の事例

新規就農希望者情報（休止中）

経営移譲希望者情報（休止中）

当協会について



会長メッセージ、組織概要、役員・会員名簿、関係団体等リンク集ほか

「農業 EXPO」（東京・大阪会場）に出展し 酪農ヘルパー事業を PR

酪農ヘルパー全国協会では、令和2年度も農業関係の就業相談イベント「新・農業人フェア」にブース出展し、「酪農ヘルパー」という仕事についてやりがいや魅力を紹介しましたので、その模様を報告します。

◆PR・情報発信を主目的とした 農業EXPOに出展

「新・農業人フェア」は自治体や農業法人等が農業分野への就業や就農支援の相談を行う農林水産省後援のイベントです。

農業関係の仕事に就くことを考えている方と、農業法人や個人経営主、自治体、JA等の農業関係者を結び、就農に向けた相談・支援を行う場として、毎年、東京や大阪などで実施されています。

専門機関や農業法人等による就農相談のほか、資金や農地、国の支援制度についての相談、各種セミナーなどが行われており、参加費無料、入退場自由ということから、漠然と農業に興味があるといった方でも気軽に参加できるのが特徴です。会場には将来の情報収集のために学生や家族連れの参加者なども訪れていました。

新・農業人フェアは、主に農業法人が出展し具体的な就農相談に対応する『農業就職・転職LIVE』と、幅広い対象者・相談内容に対応する『農業EXPO』があり、令和2年度はそれぞれ年4回ずつ開催されています。酪農ヘルパー全国協会は『農業EXPO』の4回全てに出展しました。

◆感染症対策 -オンラインブースが増える

今年度はコロナ禍の最中での開催ということもあり感染対策が徹底されていました。

来場者に対しては事前予約を推奨したうえで場内密集時は入場を制限。また、入場の際も検温、手指の消毒を行った上で、マスク着用と咳エチケットの遵守が依頼されていました。

一方、出展者側は通常よりブース間や通路のス

ペースを広く確保、衝立を立てて飛沫感染を防ぐ、筆記用具の使い回し禁止などの対応を取ることが要請されました。また、来場者への勧誘（呼び掛け）や試食も禁止で、アピールの方法は限られてしまいました。



衝立により飛沫感染を防ぐ

出展をオンラインブースに切り替える団体も見られ、特に2月開催については緊急事態宣言の発出中ということから、8割以上の団体がオンライン出展となっていました。

◆酪農ヘルパー全国協会のブース

今年度も職業認知度向上用のリーフレットなどを使用し、酪農家にとって必要不可欠な酪農ヘルパーの役割や業務、仕事の魅力を紹介、酪農ヘルパー要員確保のための活動を行いました。

7月26日：後樂園プリズムホール （東京）

全体来場者数：	740人（前年比：97%）
出展ブース：	オンラインブース 26ブース
	一般ブース 23ブース
	（当初87ブース予定）
合計	49ブース

7月開催時はブーススペースを大きく確保し、酪農ヘルパーに関する資料に加えて、「牛の一生」や「牛乳ができるまで」など、酪農そのものに関する資料も掲示しました。夏休み期間ということもあり、乳牛の全体図や牛の一生に関心をもった子供や家族連れなどもブースを訪れ、酪農および酪農ヘルパーについて多くの方に紹介することができました。



ブースを広く確保し、牛の全身像や牛の生態、酪農業などについても紹介。中学生や親子も訪れていた

また、北海道をはじめとして各地の利用組合や県団体等も出展して酪農ヘルパー募集を呼びかけ、酪農に関心を持つ来場者が訪れていました。

9月14日：池袋サンシャイン （東京）

全体来場者数：1,209人（前年比：199%）
出展ブース：オンラインブース 83ブース
一般ブース 40ブース
合計 123ブース

オンラインブースより出展ブースに着席する方が多く、当協会にも30名が来訪し酪農ヘルパーの仕事内容や求人情報について熱心に聴いていました。



オンラインブース

11月14日：ハービスホール （大阪）

全体来場者数：560人（前年比：178%）
出展ブース：オンラインブース 49ブース
一般ブース 74ブース
合計 123ブース

11月、新型コロナの第3波が取り沙汰される中にもかかわらず昨年対比で177.8%と盛況でした。コロナ禍における田舎暮らしや就農への関心の高まりが反映していると思われます。全体的には北海道や東日本はオンラインブースが主で、近畿や四国など近隣県から出展したブースが盛況でした。



2月7日：東京国際フォーラム （東京）

全体来場者数：856人（前年比：102%）
出展ブース：オンラインブース 98ブース
一般ブース 17ブース
合計 115ブース

2月開催の東京国際フォーラムはJR駅から至近距離という好立地ということもあり、緊急事態宣言の最中ながら、多くの来場者が訪れました。

職業認知度向上用リーフレットなどを用いて酪農ヘルパー事業について紹介したほか、関心を持っていただいた方がその場でさらに追加の情報にアクセスできるよう当協会HP、求人情報に誘導するQRコードを用意し、パネル掲示、配布をしました。



職業認知度向上用リーフレットで酪農ヘルパー事業を紹介



来場者対応中もリーフレットを手にする



QRコードで詳細な事業の詳細や求人情報に誘導

酪農ヘルパー全国協会では令和3年度も引き続き、新・農業人フェア等を通じて積極的に事業のPR・認知度向上活動を展開する予定です。

臨時酪農ヘルパー普通傷害保険制度（令和3年度）

例年、実施している「臨時酪農ヘルパー傷害保険（死亡・後遺障害・入院・手術・通院の広範囲リスクに対応）」は、全国の利用組合様から年間約800名の臨時ヘルパー様にご加入いただいて運

用しております。臨時酪農ヘルパー業務中の“いざという時”のために是非ご検討いただきますようお願い申し上げます。〔掛金は令和2年度と同様です〕

●掛金

年払方式（加入月により3,560円～300円）

加入月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
保険料	3,560	3,260	2,970	2,670	2,380	2,080	1,790	1,480	1,180	890	590	300

●補償内容

区分	保険金額
死亡・後遺障害	480万円
入院（手術特約）	10,000円／日（10倍）
通院（手術特約）	6,500円／日（5倍）

●加入方法

利用組合等⇒都道府県団体⇒酪農ヘルパー全国協会

*ご加入方法ほか詳細は当協会ホームページの利用組合向け情報でご確認ください。

*この保険制度は、酪農ヘルパー要員の確保育成による酪農生産基盤強化の一環として、臨時酪農ヘルパー出役中の事故の補償を目的に運用されています。

◆◆◆編集後記◆◆◆

令和2年度の「酪農ヘルパー情報」をお届けします。世界中が新型コロナウイルスに翻弄された一年間でしたが、当協会でも、初任者研修をはじめ実施を計画していた様々な事業を中止せざるを得ない状況となりました。例年12月に行っていた「酪農ヘルパー事業中央研究会」もそのひとつで、各地の利用組合における業務改善の取組みな

どの優良事例の発表や優秀ヘルパーの表彰が予定されていましたが、安全に開催することは不可能と判断しました。この情報誌でも毎年、研究会の模様を詳しくご紹介していたのですが、今号ではいつもと異なる視点から誌面を造りましたので、皆様のご参考になれば幸いです。

酪農ヘルパー情報（令和3年3月発行）

一般社団法人 酪農ヘルパー全国協会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1丁目37番2号 酪農会館6階

TEL. 03-5577-5135

FAX. 03-5577-5136

URL : <http://d-helper.lin.gr.jp>

E-mail : info@d-helper.lin.gr.jp